

### 3 研究のまとめ

#### (1) 研究の考察

本研究について、評価問題と学習に関するアンケートから考察をします。

##### 【評価問題の分析】

授業実践後、生徒の思考力・判断力・表現力を見取るために評価問題を実施しました。各実践における評価問題の記述内容に関する評価の結果を表 1、判定基準を表 2 に示します。問題は、与えられた資料を基に、習得した知識を活用しながら自分の考えを述べるように設定しました。全ての実践において、評価問題の記述内容に関する評価は A、B の割合が多かったです。与えられた資料から情報を読み取り、習得した知識を活用しながら自分の考えを述べるできるようになっていました。本研究の対話的活動によって、新しい情報と既習知識を比較したり、関連付けたり、整理したりすることで自分の考えを確実なものにできたのではないかと考察します。しかし、実践事例 2 の問 2 では、C 評価が半数近くを占めました。学習後時間が経過しており、知識の習得が十分ではなかったためと考えられます。習得した知識を活用・探究する過程で、対話的活動を繰り返し行うことで、思考力・判断力・表現力が身に付き、その中で新しい知識が獲得されて深い学びへとつながると考えられるので、このような授業を継続していくことが大切であると考えます。

表 1 各実践における評価問題の記述に関する評価の結果 (%)

教科 (科目)	実践事例 1 国語 (古典 B) (n = 16 人)	実践事例 2 理科 (生物基礎) (n = 31 人)		実践事例 3 地理歴史 (日本史 A) (n = 23 人)
	問 1	問 1	問 2	問 1
A	50.0	35.5	19.3	26.1
B	12.5	54.8	32.3	47.8
C	37.5	9.7	48.4	26.1

表 2 各実践における評価問題の判定基準

判定基準	実践事例 1 国語 (古典 B)	実践事例 2 理科 (生物基礎)	実践事例 3 地理歴史 (日本史 A)
A	既習事項と本文の叙述を結びつけ、それに基づいて論理的に考えを形成している。	既習内容や本文の内容を基に根拠を明確にし、説明している。	資料から考えの根拠となる事実を読み取って、読み取った事実と知識を活用しながら、複数の視点で 2 つの政策を比較している。200 字以上で記述している。
B	本文の叙述を手掛かりにして、自分なりの考えをもつことができている。	既習内容や本文の内容を基に説明している。	資料から考えの根拠となる事実を読み取って、読み取った事実と知識を活用しながら、1 つの視点で 2 つの政策を比較している。200 字以上で記述している。
C	本文の叙述に基づかない、一般的もしくは主観的な考えになっている。	既習内容や本文の内容に基づかない説明になっている。	B に達していない。

## 【学習に関するアンケートの分析】

アンケート結果は、四件法の選択肢ごとに重みを付け、平均した数値をグラフ化して示しました。質問 1 (図 1) と質問 2 (図 2) について、事後に数値が上昇していることから、授業実践を通して生徒の目的意識や課題意識の高まりが見られ、授業に主体的に取り組んでいることが分かります。

質問 4 (図 4) について、事例 2 では事後に習得した知識を関連付けようとする意識の高まりが見られ、習得・活用・探究の学習過程を意識した授業の効果だと考えます。質問 5 (図 5) について、授業で判定基準を示したため、理由や根拠を基に自分の意見を記述するように意識が高まったことが分かります。質問 7 (次頁図 7) については、全ての事例で質問 6, 8 (図 6, 次頁図 8) については事例 1, 2 において事後に数値が上昇しています。これらの結果から、生徒が対話的活動を通して他者の考えを聞き、自分の考えと比較したり、関連付けたり、相違点・共通点を見付けたりすることで自分の考えが広がったり、深まったりした実感があつたと推察され、対話的活動の効果があつたと考えられます。また、質問 13 (次頁図 9) について、事例 2 は事後に大きく上昇しており、学習課題(問い)の設定場面が実生活の中での自己に関係するものであつたため、生徒が学習した内容が日常生活の中で新たな気付きにつながったり、役立ったりしたと感じたと考えられます。このことから、学習課題(問い)の設定の効果があつたと考察します。

しかし、質問 3 (図 3) については、事例 1 と事例 3 では事後に内容を理解できた実感できた生徒が減少しています。これは、授業においてその場限りの知識となっており、習得・活用・探究の過程をより意識して単元計画を立てるべきだったと考えられます。

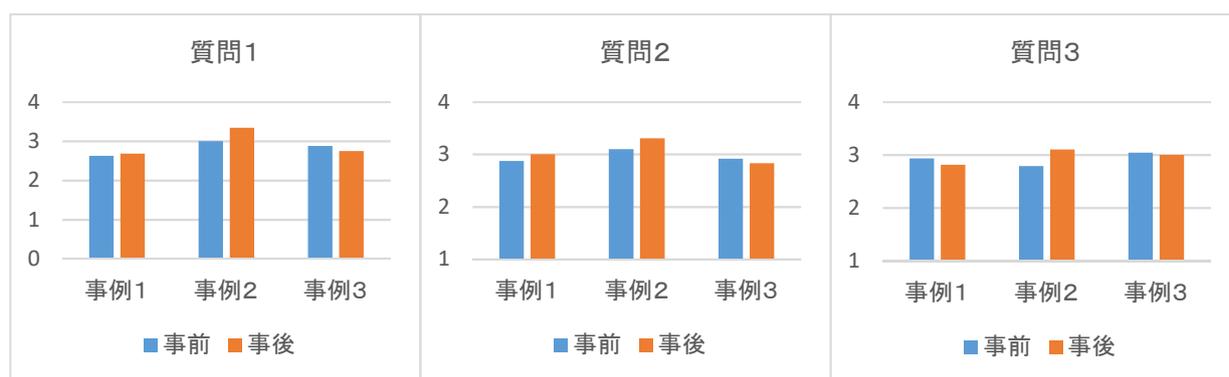


図 1 【質問 1】学習している内容について、課題や目標を意識しながら授業を受けている。

図 2 【質問 2】学習している内容について、「なぜだろう」と考えながら授業を受けている。

図 3 【質問 3】学習した内容について、理解できている。

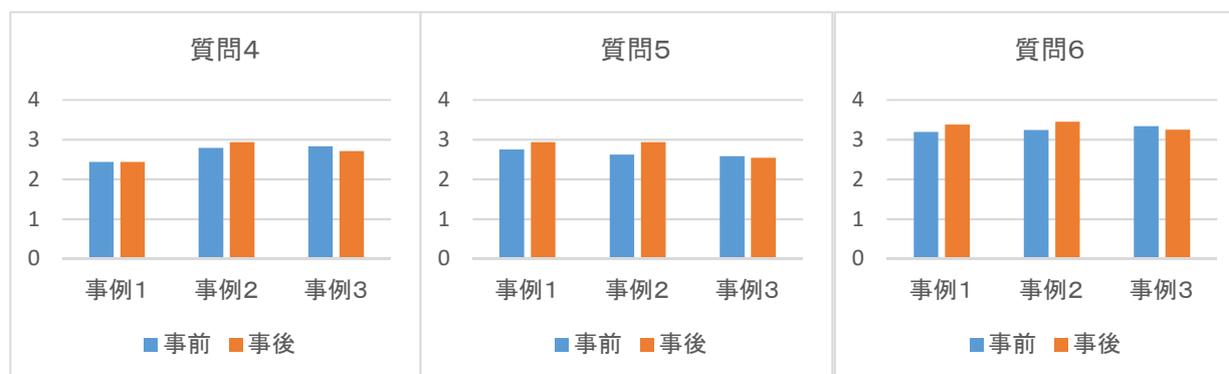


図 4 【質問 4】学習している内容について、すでに学んだ内容と関連付けて考えている。

図 5 【質問 5】理由や根拠を基に自分の意見を発言したり、記述したりしている。

図 6 【質問 6】話し合いをするときは、相手の考えを知ろうとよく聞いている。

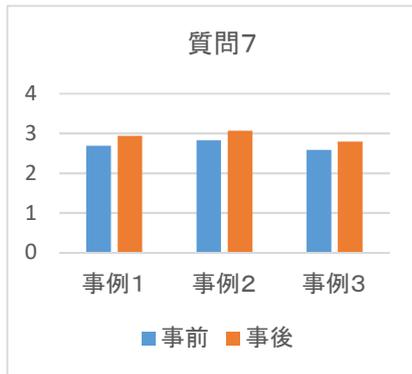


図7 【質問7】話し合いの中で、自分の考えと他者（友達、先生等）の考えを比較したり、関連付けたり、共通点や相違点を見つけている。

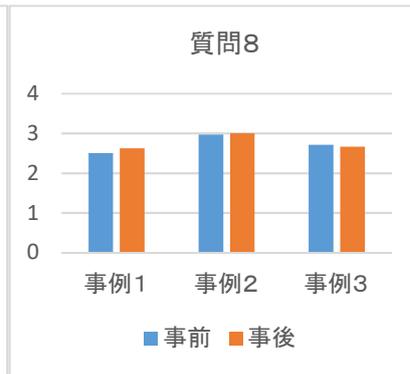


図8 【質問8】話し合いの中で、自分の考えが広がったり、深まったりしている。

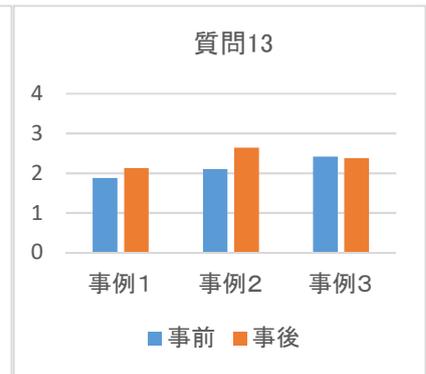


図9 【質問13】学習した内容が、日常生活の中で新たな気付きにつながったり、役立ったりしている。

## (2) 研究の成果と課題

本研究による成果と課題をまとめました。

### 成 果

- ・習得した知識を活用・探究する過程で対話的活動を取り入れることは、自分の考えを広げたり、深めたり、確かなものにでき、思考力・判断力・表現力を育成することに効果がありました。
- ・複数の答えを導き出す、実社会、実生活、自己に関係する学習課題（問い）を設定したことは、生徒が対話する必然性を促し、対話的活動が活性化されました。

### 課 題

- ・深い学びへ導くためには、教師が学習課題（問い）を立てる力を高めることが必要です。生徒が自分なりの考えをもつことができ、その考えを深め、更新していけるような問い、また、教師が生徒に刺激を与え、日常の場面での新たな疑問や発見につながるような学習課題（問い）を設定することが大切です。
- ・思考力・判断力・表現力を育成するためには、習得・活用・探究の過程を意識して単元計画を立て、基本的な知識をしっかりと習得させる必要があります。